

令和6年度第1回青森県こども未来県民会議
実施報告書

1. 事業目的

青森県内における少子化の要因分析や政策立案、政策効果の検証等を行い、合計特殊出生率2以上に道筋をつけるこども・子育て「青森モデル」を構築するため、青森県こども未来県民会議を開催する。

2. 事業内容と実績

(1) 第1回青森県こども未来県民会議の運営

① 実施場所：青森市 AOMORI STARTUP CENTER

② 実施日：6月22日(土) 11:00～12:45

③ 参加者：知事・メンバー9名

(田中綾乃さん欠席)

	氏名	ふりがな	居住地
1	小山 悠里	おやま ゆり	青森市
2	亀山 瑠香	かめやま るか	おいらせ町
3	工藤 史子(※)	くどう ふみこ	青森市
4	越田 安耶子(※)	こした あやこ	青森市
5	坂本 美香子	さかもと みかこ	弘前市
6	田中 綾乃	たなか あやの	南部町
7	種田 英里香	たねだ えりか	弘前市
8	牧野 晴子	まきの せいこ	青森市
9	山内 優(※)	やまうち ゆう	青森市
10	和田 和恵	わだ かずえ	東北町

五十音順。※印は団体等からの推薦。

④ 託児利用：なし

⑤ 開催内容：

- 第1部 講演 「男性育休の取得促進について」
 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン 理事 徳倉 康之 氏)
- 報告 「こどもと子育て及び結婚に関する分析」(青森県)
 「少子化の現状とこども・子育て支援施策」(青森県)

第2部 意見交換 ※こども・子育てに関すること、女性の県内定着について

	名前	意見内容
1	小山 悠里さん	・婚姻率が低いのは、若い人がいないことが原因と考える。 ・若い女性が青森県に留まり、就職してもらえるかが重要なのではないかな。 ・若い女性が県内に留まらないのは、就職したいと思う会社や職業のバリエーションが少ないからと考える。
2	亀山 瑠香さん	・元保育士の従業員から、保育園での勤務は朝早く帰りが遅いという声を聞いた。当社では、8時から16時までの勤務時間にし、潜在保育士が就職をしてくれた。 ・「誰でも通園制度」は、普段の様子が分からないこどもが通園するので、保育士は不安ではないかと思う。
3	工藤 史子さん	・ファミリーサポートセンターに支払う金額がすごく少ない。保育士の資格がある人がファミリーサポートセンターに加わり、もう少し手当が出せる仕組みになればよいと思う。 ・女性が県内に就職しないのは、給料の低さにあるのではないかな。また、求人のタイミングが遅いこともあるのではないかなと思う。
	越田 美香子さん	・県内では、就職先を選べないので、女性が定着しない。 ・県内には大学が少ないので、進学などで県外に出るとそちらで就職先を探してしまう。
4	坂本 美香子さん	・「誰でも通園制度」の実施に向けては、保育士の人員配置や賃金の改善が必要である。 ・潜在保育士に、保育士が魅力的な仕事と思ってもらえるよう県や国に踏み込んだ取り組みをしてほしい。 ・「青森県には、閉塞感がある」という友人の言葉が印象的である。
5	種田 英里香さん	・結婚マッチングシステムの利用に不安や抵抗がある人もいると思う。 ・大規模な出会いのイベントを県で実施してはどうか。 ・給料や福利厚生面で、大企業が安心感があるのに比較

		して、若い人は、中小企業の多い青森県の会社に就職することを不安に思っているのではないか。
6	牧野 晴子さん	・青森市内の保育の大学では、学生数が減少しており、保育士になりたいと思う子どもがいなくなっている。 ・どこの保育園でも仕事の持ち帰りや残業がある。風土を変え、業務改善をしなければ仕事の量に追いつかない。 ・潜在保育士などで人が増えると良いと思う反面、人が増えると現場の状況を共有することの難しさも出てくる。 ・県内には、就職先が少ない。また、職場環境が良くなるように改善が必要である。 ・親の世代は特に「男性は家を継ぐ」という考えがあり、男性は県内に残りやすく、女性は出ていきやすいのではないかと思う。
7	山内 優さん	・「AI であう」に、青森県ならではの視点、既婚者ならではの視点を取り入れてはどうか。 ・婚姻率が全国 46 位であるのに対し、合計特殊出生率は 36 位。青森県では結婚をすれば、子供を産みたいという気持ちになるのではないか。 ・若い女性が県内に定着しないのは、人間関係の狭さが原因ではないかと思う。
8	和田 和恵さん	・妊娠を希望する人は、治療と仕事の調整で課題を感じる。 ・働き方の改善が必要である。 ・不妊治療休暇の仕組みはあっても、長時間労働など職場の負担が減らないと、休みを取りづらい。 ・こどもが青森に愛着を持つよう、人とのかわり、青森の良いところを感じる機会があればいいのではないかと思う。